

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	加治川の里全体の理念の他に事業所独自の処遇方針を掲げ、職員だけでなく、利用者、家族と共有できるよう見やすい場所に掲示し常に意識して実践出来るようにしている。	開所当時の処遇方針「笑顔のあふれる居心地よいホームを作ろう」を玄関やフロアーに掲げている。出勤してきて玄関に入ったら、笑顔でいることを意識し、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月第2木曜日に地域で行われるカラオケ会に参加し交流している。隔月発行の広報を地域の回覧板の中に入れてもらい、情報の発信をしている。	地域行事の草刈りやゴミ拾い等、事業所は参加しなくていいとなっているが、地域との関わりを持ちたいと利用者と参加させてもらい、積極的に交流を図っている。利用者と一緒に回覧を届けて、庭の花を觀賞させてもらったり、クリスマス会や納涼会には地域の方もお誘いしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	クリスマス会、納涼会などは地域の方に参加を呼びかけ、じかに認知症の方に接していただく機会を設けているが、リビングが狭い為一度に多くの方に来ていただけない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族にも参加してもらい、日常の取り組みや、行事、運営方針など説明し、自由な発言の出来る場としている。意見や要望の中で必要があれば本社へも上げている。	区長・地域代表・包括・家族・利用者の参加で定期的に開催している。ホームの取り組みや状況報告を行い、意見・情報交換している。看護師の常駐・職員異動について要望があり、上司に伝えてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な連絡は行っていない。苑からは広報の発送を定期的に行い、市町村からの情報は職員間に回覧している。	利用者と一緒に市の担当者のところへ出向き、広報誌を渡している。何かあれば、電話で相談しており、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等があれば出来るだけ参加するようにしている。玄関の掲示版に身体拘束排除宣言を掲示し啓蒙に努めている。	年間研修計画に身体拘束の研修を設け、全職員が学んでいる。行動制限する言葉に注意を払っている。階段が2か所あるが、事故防止のため片方の階段口のドアに鍵をかけている。	利用者の安全を確保しながら自由に階段が利用できるよう、業務の見直しや工夫をして、解錠に向けた取り組みを期待したい。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会等があれば参加するようにしている。ミーティングなどで虐待について話し合いの場を設けている。	外部研修への参加や会議時に学ぶ機会を設けている。利用者の表情・顔色・日々の言動に注意を払い、全職員で防止に努めている。新人職員の研修を含め、上司に会社の研修会を開催してもらうことを要望として上げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各事業については言葉としては知っているものの内容についてよく理解しているとは言えない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書ならびに重要事項その他緊急時、退所時の対応についても説明している。また、不安や質問などあれば、その場でお聞きし対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも話を聞く用意がある事を常日頃から伝えている。運営推進会議メンバーとして参加してもらい、運営についての意見も上げてもらっている。	面会時や電話・行事等で近況報告をする際に家族に聞くようにしている。不満や要望を話してくれる家族もあり、1対1の関わりについて、意見をもらい、職員は対応について話し合い反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、合同会議、フロア会議(1,2階)を各1回行っている。必要があれば本社より施設長等に会議に参加してもらっている。	管理者は上司に何でも言える関係であり、現場の状況で職員異動について相談している。職員も管理者に何でも話せる関係であり、業務上の物品購入の要望等、聞く機会を設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、職員全員の希望調査を行うと共に、管理者会議などに要望等聞く機会を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より講師を呼んでの研修の機会を設けている。各事業所で希望する研修を受けることができるシステムになっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所で定期的に行われている勉強会に参加している。また、地域密着型事業所の研修会や交流会に参加している。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からはなかなか不安等を聴くことが難しいが、出来るだけ安心して入所できるように声掛けなど工夫して、接するよう努めている。事前に得られる情報については職員で予め把握するように申し送りを行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時から、家族の不安や要望等聴き、納得して入所できるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と離れ知らない環境の下で生活しなければならない不安など、出来るだけ解消し、早く苑になれてもらえるようなプランを家族の希望などお聞きして立てている。他のサービスはを利用する機会はほとんどない。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることへの積極的な働きかけにより、一人ひとりが役割を持てるようにしている。してもらった事に感謝の言葉を忘れないようにしている。また、利用者同士の関係作りを円滑にするために、職員も間に入っている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりに担当を決め定期的なお手紙の送付や、状態報告などを行い、家族にとっても話し易い環境作りに努め、一緒に支えていくという意識を持てるようにしている。	クリスマス会や納涼会等、家族行事を大切に交流を図り、些細な変化でもこまめに状態報告し、何かあれば共に支援していくことを伝えており、関係を築いている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などは誰でも自由に受け入れており、外出や外泊も希望があれば行っている。	家族・親戚・知人が訪ねて来た際、ゆっくり過ごしてもらえるよう対応している。自宅や美容院に出かける等、家族の協力で一人ひとりの暮らしを大切に関係継続の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時は食卓席の変更や、職員が中に入り会話が円滑に運ぶような雰囲気作りをしている。レクリエーションなど楽しむことなどから、仲間意識も生まれている。お互いにいたわりの声掛けなど交わされることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も依頼があれば、相談などに応じている。入院等で退所した場合などは面会に行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望など本人の意向が分かりにくいいため家族の話など参考にしたり、会話の中から探っていくようにしている。	一人ひとりの思いに沿って、畑作り・草取り・花壇作り等、行動や会話の中から思いを探りくみ取っている。夜間不眠時に1:1の対話から、本音が聞けることも多い。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に出来るだけ家庭に訪問するようにし、住み慣れた環境を見せていただきながら、家族の話を伺うようにしている。	入所前には出来るだけ家庭訪問をし、話の中やその環境から汲み取り、ケアに活かしている。職員の作った日常生活の中の50の質問をして、その回答をヒントにその人となりの暮らしの把握をしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	苑としての予定もあり本人のプランもあるが、希望があればできるだけ自由に過ごせるようにしている。心身状態などの変化は申し送りして把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には本人、家族に意見を聞いている。担当者会議を開いて話し合いを行い、担当者はケアチェック表の記入を行っている。	日々変化を重ねる利用者の気付きを取り上げている。本人の意向・家族の思いを反映しながら目標を作り、月1回全職員でモニタリング・カンファレンスを行っている。担当者のケアチェック表記入によって、変化や家族の意見により見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録には出来るだけ様子が見えるような表現を用いて記入するようにしている。また、支援経過表に詳細の記入も行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提案や、希望等があれば可能なかぎり対応しているが、サービスの多機能化とはいえない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加することはあるが資源の活用にはなっていない。地域資源の把握も十分とは言えない。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人家族が希望する所にしている。受診時には状態報告を行い、付き添いなどの要望があれば同行している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に、状態報告をし基本的に家族同行の受診となっている。不可能な時には職員が代行をしている。協力医には利用者の状況変化時に情報提供しており、必要に応じ往診などによる支援が来ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置されていない。会社の他事業所の看護師に相談したりしているが、常に連絡が取れるわけではなく、十分とは言えない。協力医へFAXなどで状態報告をし、直接指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は、情報提供表を作成し医療機関に提出している。家族と密に連絡を取り、居室の確保を行い、いつでも戻れる体制にしておく。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に今後重度化した場合の対応について予め家族の要望を聞き、苑で支援できることを説明し考え方のすり合わせをしておく。他施設の見学などを行い情報の提供が出来るようにしていきたいが、多くは行くことが出来ない。	事業所の指針でもあり、終末期は出来ないむね早期の段階で本人・家族と話し合い、方針の統一を図っている。状況変化時は、医療機関や家族等関係者でニーズを汲み取りながら、病院・特養へと移行の方向へ進め、それに至るまでは、チームで支援して行く様に対応している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習は職員が全員うけている。吸引器等の取り扱いについて、定期的な講習会は行われていない。急変時の対応はカード化して事務所に置いてある。	救急救命法はマニュアルに沿って、講習を全員が受講している。職員の多くは急変時の判断の経験が浅い為、管理者は実技を含めた勉強会を計画している。	救急車が到着するまでの間の応急処置や、救命法の準備することについて、ケースの想定をし、訓練を定期的に行い、実際の場面で活かせる技術を、習得することが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の区長に運営推進会議で協力をお願いしているが、文書化は出来ていない。年2回(春、秋)避難訓練を行い、利用者の状態に合わせた避難、誘導方法を検討し職員で共有している。	避難場所は隣の月岡駅になっており、年2回消防署の指導のもと訓練している。様々な災害を想定して、地域住民の参加協力を得たいと思っているが、それまでに至っていない。食料、備品の準備は来ている。	職員だけの誘導では限界があり、日頃より地域住民、警察、消防署との連携を図りながら、具体的な支援体制の整備をし、定期的な訓練を繰り返し行うことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれなれしい言葉使いにならないよう注意している。居室に入るときは個人のスペースであることを意識している。	記録類はリビングで、利用者を見守りしながらの作業だが、気付かれない様行っている。又親しみを込め方言など使ったりするが、過ぎて馴れ馴れしくならない様、全職員で注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に向き合って、話かけを行い、気持ちをくみ取ることができるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑のペースで進むことが多く、個々の希望に沿っていないことも多いと思うが、疲れた様子がある時などは居室で休むなどの対応はしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは出来るだけ本人に選んでもらっている。おしゃれが出来る支援は少ない。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量、好みなど入所時に確認しておく。調理、片付けなど出来る事は行ってもらっている。	食事に関する一連の作業は、利用者の得意分野を把握し、役割を持つことで、心身の活性を引き出す良い機会と捉えている。月2回希望を聞き作ったり、美味しいものを楽しく食べる等、食事への感心を引き出す為の工夫を重ね支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、栄養状態の目安にしている。お茶などの時間に好みのものを用意している。排尿状態が悪い場合は水分量のチェックを行い確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯については就寝前に預かり洗浄しているが自分の歯の方の磨き残しのチェックは出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を行っているが歩行に不安がある方については夜間にポータブルトイレを使用している。個々の排泄の間隔により定期的に排泄の声かけを行い、失禁に至らないようにしている。	プライドを傷つけることなく、一人ひとりのサインを全職員が共有し、あからさまな誘導せずさり気なく支援している。家族の意向もあり、おむつ・パットの使用を検討し、可能な限り布パンツで過ごせるよう工夫している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取れるような献立を考えている。夕食時に食物繊維のサプリメントを用いたりしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	隔日に入浴できるように予定している。希望や必要時には、隔日にこだわらず対応している。利用者の状態をみてその日ごとに変更している。	入浴は毎日希望の利用者もあり、午後からは何時でも入れるよう準備している。言葉がけやチームプレイによりその人に合わせた入浴支援をしている。入浴剤の色やゆず等リラックスした中で1対1で本音が聞ける大切な時と位置付けている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内環境、寝具、明るさ、室温などに気を配り、安眠できるよう心がけている。就寝時間の取り決めはない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、確実に飲み込むまで確認している。薬の説明書はすぐに見る事が出来るようにファイルしている。状態の変化がある場合は、医師に状態報告をし指示を受け申し送り確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事のほか、誕生会、など年間の担当を決め楽しみや季節感を持てるようにしている。喫煙、飲酒なども職員が付き添い楽しんでもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩など個別に外出しているが、出かけられる利用者に偏りがある。ひとりひとりの希望にはこたえられていない。	買い物や散歩など出掛けるが、必然的に決まった人のみになり、あとは拒否する方も多いため、全員参加の外出の支援に至っていない。年間予定の花見など、お弁当を頼み運転手付きの車で出かけ、家族参加で一緒に楽しんでいる。	本人の意欲や自立を促す為、近所の喫茶店、歩きながら草花を楽しんだり等、ストレス発散、その人らしく暮らし続ける主要と捉え、支援されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの人が、苑の管理となっている。外出時に使う程度となっている。一人ひとりの希望はあまり答えられていない。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族あてのに手紙を書いてもらう事がある。また、手紙の代筆なども行っている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関には季節の花を飾るようにしている。廊下やリビングには季節感のある装飾や手作りのカレンダー、行事の写真など飾っている。照明や室温などはこまめに調節している。</p>	<p>楽しかった行事の写真、大きな季節のこのぼりが天井いっぱい、すっきり飾られ、幼稚っぽくならない工夫と、チリーつ無くきれいに磨かれた廊下や居間は落ち着いており、清潔感であふれ居心地良く過ごせる自宅として支援されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同の空間はスペースに限りがあるが、ソファなどで仕切るなど工夫し自由に居場所を変えられるようにしている。一人になりたい場合は居室で過ごしてもらっている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドや家具など馴染みの物を持ってきてもらうように家族にお願いしている。状態の変化によっては、本人が使いやすいように、配置換えなども行っている。</p>	<p>利用者と家族で話し合い自宅で使用していたベッド、机、記念写真、など持込、居心地良く過ごせるよう、工夫している。建物の前をときどき通過するSL列車が、懐かしい風景を楽しませてくれている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーとなっており、廊下には手すりを付けている。居室やトイレには張り紙など付けてそれぞれが分かるようにしている。玄関にはセンサーが付いており、独りででの外出を防止している。</p>		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と		
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと		
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと		
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない		
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように		
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度		
		3. たまにある			3. たまに		
		4. ほとんどない			4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない		
		4. ほとんどいない			4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が		
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					